

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

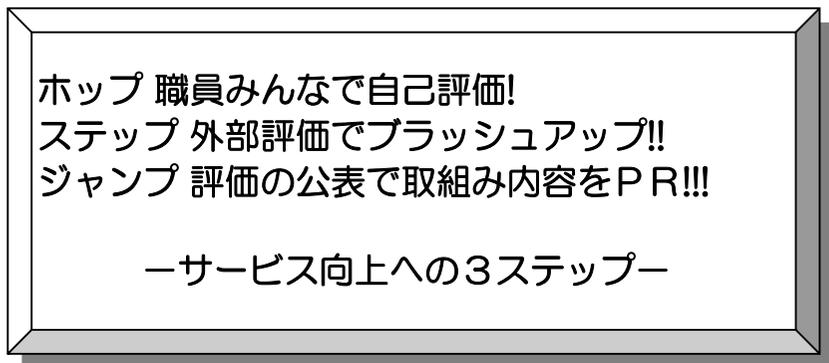
I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3873600476
事業所名	グループホームあおぞら
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	芦田 淳
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 24 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、澄み切った「あおぞら」のように関わる全ての人々が「こころ」も「からだ」も、健やかで、朗らかな生活が送れるように支援致します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・1日1回は数名の方でも、外に出かけることが出来る。</p> <p>(結果) 毎日の参加は難しかったが、意識するようになりそれが定着できるようになった。重度の人でも少し回数が少ないが外の季節を感じる事が出来た。今後も引き続き行っていきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は設立して16年目を迎え、利用者の自立支援に向けて、利用者自身ができることを把握しながら、管理者と職員が一丸となって生活支援に取り組んでいる。「地域とのつながりを強固にしていきたい」と法人代表者と管理者は協力し、今年度から法人・事業所として町内会に加入して事務局を担っている。また、事業所では鍵をかけない取組みを実践しながら、防犯カメラを設置するなど、職員や利用者の安全にも配慮している。代表者自ら職員との面談を実施したり、外部研修の参加など職員のスキルアップに努めたりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人からの話や家族からの思いを組み入れ意向の把握に努めている。	◎	/	○	日頃から、職員は利用者のさりげない言葉のほか、日常生活での会話や行動を確認し、希望や意向を把握している。また、必ず介護計画の更新月には、職員が利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を再確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	会議などで議題に上げ検討を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族以外の方からは中々伺う機会が少ないが、電話などで聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	記録や職員間で共有できるよう記録を残すようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日頃から声掛け、話をし思いの確認留意を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査や家族から少し聞けるのみにしている。また、その都度家族に聞いている。	/	/	◎	入居前に、職員は事前調査で自宅や入院先に出向き、利用者や家族から情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の担当者や担当の介護支援専門員、病院の相談員、リハビリ職員などからも、情報を確認して記録に残している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員同士情報の共有行い把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	場面場面での表情を職員間で情報交換し把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人からの話や職員の情報共有にて把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人日課計画表を作成。変わりあればそのつど変更行い把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	検討行い何か問題点ないか考慮している。	/	/	◎	毎月1回、職員全員が参加してケアカンファレンスを実施している。ケアカンファレンス前には、職員が事前に電話連絡時などを活用して利用者や家族の意向を確認し、職員間で情報共有をするほか、利用者本人の視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の意見家族も思いも大切にし何が必要かを検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	問題や障害がないのかも課題にあげ検討している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	作成者中心となりその人らしさを大切にしている。	/	/	/	ケアカンファレンスで話し合うほか、日常生活の中での利用者の言葉や行動と、家族からの希望などを取り入れ、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族の希望に添えるよう全職員で検討話し合いを行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族との協力のもとできている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の聴力体制はできているが地域の人たちとは協力体制が難しいところがある。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員の介護計画書を挟んだファイル作成いつでも確認できるようにしている。	/	/	○	介護計画の支援内容は、各利用者用のファイルに挟み、フロア内で職員がいつでも確認できる場所に置いている。新入職員には、分かりやすく記入した介護計画の内容を渡している。月1回モニタリングを行い、職員間で利用者の現状やサービスの実施内容を確認し合っている。利用者の言葉や状況で特に変化があった場合には、赤字で経過記録に記載して分かりやすい工夫をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	担当制にしてつき一度モニタリング作成しカンファレンスで話し検討している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	気づきや状態変化時は出来ている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の記録用紙に記入している。また気づきノートも活用している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	原則、6か月で見直しを行っている。状態が変わればその都度行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。月1回、各利用者の担当職員がモニタリングを実施している。入退院時や状況変化があった場合には、計画作成担当者が中心となり、利用者や家族、医師などの関係者と相談しながら、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一度モニタリング行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	現在の状態に応じた介護計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に一度カンファレンス実施している。	/	/	◎	毎月1回、ケアカンファレンスを実施している。緊急案件があった場合は、その日の出勤職員で話し合いをしている。参加できなかった職員には、出勤時に申し送りノートを見て確認してもらうほか、口頭での申し送りもしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	一人ずつ意見を出す場を設けている。自分の考え発表している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開始時間など配慮しできる限り多くの職員が参加できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議議事録の作成参加した職員を含め全員が確認している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員の連絡ノートを作成している。	/	/	○	出勤時の申し送り前に、職員は業務日誌と連絡ノートを確認し、サインまたは押印をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	連絡ノートに記入し全職員が閲覧している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	外出希望など希望に添えない時がある。基本的には出来ている。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を確認している。発言の少ない利用者には、何げない発言や行動、表情を大切にして、分かりやすい選択肢などを提示している。利用者はレクリエーションの内容を決定してもらうほか、洋服や飲み物を選んでもらえるよう支援している。利用者が電話で家族と話せるよう支援したり、職員が昔話したりするなど、利用者の活き活きとした言動や表情を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物、服選びなど極力本人に選んで頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	無理には決めず、本人の思いを聞いて、尊重して対応している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	時間は厳密には決めて折らず、体調なども配慮おこなって対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	他の職員の時はどうだったかなど情報の共有を図りながらよりよく引き出せるよう努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や仕草で気持ちに寄り添えるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会で取り上げ常に意識して支援している。	/	○	◎	毎年1回、人権や尊厳をテーマとして取り上げて内部研修会を実施し、職員の理解できるよう支援している。管理者は、「言葉の乱れは虐待の始まり」と考え、日頃から職員に、利用者への声かけには配慮するよう指導している。また、居室への出入りは、必ずノックしてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大声で言わず常に敬語を基本としている。プライドを常に配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	女性対応希望者には希望に添えるよう配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックをしてからの訪室や扉を開けたままにしないよう配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	特に気をつけている。年一回勉強会を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一方だけ優位にならないよう心がけを行い、感謝の言葉などを言葉にして対応している。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握し、食事の座席を変更するなどの配慮をしている。新たな利用者が入居した場合には、職員はトラブルにならないよう特に気をつけて接している。また、仲の良い利用者同士が、食事以外でも塗り絵や洗濯たたみなど、隣席に座って行ってもらおうなどの支援もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の交流を大切に考えている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	食事席の配慮や普段話されない利用者さんたちも職員が入ることにより交流できるよう関わっている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を見ながら間に入り距離をおく。気分転換などの対応によりそれまでの関係が保てるよう支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	事前調査などで、聞いているがわからない時は、その都度家族に聞いている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	、把握には事前調査や面会時に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	特定の人にならないように配慮している。	○	○	○	事業所近くの土手を散歩したり、道端の花を見に行ったりしている。現在はコロナ禍のため利用者の外出は控えているが、玄関先のベンチで過ごしたり、外に出て外気浴ができるよう支援している。重度の利用者にも、日中は居室からフロアに出て過ごしてもらい、換気も兼ねた窓の開閉で季節や外の空気、風を感じてもらっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	特定の人にならないように配慮している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ケアカンファレンスや勉強会に取り上げ理解を深めている。	/	/	/	洗濯物やタオルたたみ、新聞でゴミ箱を作るなど、利用者に合わせたできる取組みを行なってもらっている。夜間パジャマへの着替え時のボタン掛けなど、利用者自身でできることをしてもらい、職員は待つ介護を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	勉強会などで学んだ事をその利用者にとり組むか検討行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	衣類整頓布団たたみなどされお手伝いする時はさりげなく行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	洗濯たたみ新聞折り野菜の下準備をされている。	/	/	/	タオルたたみや新聞折り、下膳、花の水やりなど、職員は利用者のできることを役割としてお願いをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	台拭き草むしり洗濯たたみ負担にならない程度行って頂いている。	◎	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方が植えた花の水遣りなどを時折行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	顔の眉を書かれる方もおられる。新たに分かった事は情報共有行っている。				化粧水や乳液をつけて化粧したり、髪飾りをつけたりするなど、自分でおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。車いすの男性利用者は自分で髭を剃り、職員は剃り残しがあれば、さりげなくフォローしている。定期的に訪問理容で整容しているほか、馴染みの美容室に出かける利用者もいるなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	カツラを使用されたり室内でも帽子かぶられている方がいる他の方への配慮も行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族に好みをお聞きし対応するよう努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	自分で決められない方も気持ちに寄り添い手伝っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時や入浴後、氣をかけている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	利用者家族と馴染みの理容院行かれていた方がいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎朝ベツ上でも整容行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事が健康に繋がる事と理解している。				献立は栄養士が作成したものを、利用者と職員が相談して変更する場合もある。食材は職員が注文し、地元の道の駅や商店から配達してもらい、不足した食材は、職員が買い出しに行っている。野菜の皮むきやお茶入れ、下膳は、利用者と一緒にしながら、職員が調理している。入居前に、利用者の嗜好やアレルギーの有無を確認しているが、入居後に利用者の嗜好の変化に気づくこともある。誕生日には、利用者のリクエストメニューを取り入れるほか、ケーキを購入している。8月にはそうめん流し、10月には芋炊き、地方祭にはお寿司など、行事や季節に合わせたメニューが提供され、利用者の楽しみにもつながっている。食器は利用者自身が持参したものを使用し、職員はさりげない介助をしながら、利用者と同じ食卓で食事を摂っている。食事前には、利用者がフロアで過ごし、調理中の匂いや音を感じ、食事が待ち遠しく感じるような支援にも取り組んでいる。また、食事形態や治療食など、主治医や栄養士、職員が相談しながら対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	野菜の皮むきなどで頂いている。特定の人だけににならないように配慮している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	盛り付けや台拭きなど軽作業手伝って頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	田楽流しやそうめん春ちらしおせち料理など季節のものや郷土料理を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	刻み、ミキサー食でも他の方と同じ様な彩りや盛り付けになるよう配慮行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持参された個別の物を使用状態に応じ軽量化に変更する等行っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は同じ食事を一緒に摂っている要介護者のテーブル中心となるが全体の見守りこえ掛けに留意している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ミキサー食でも一つ一つメニューの説明少量でも味見して頂けるよう一対一の対応している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一日のチェック表を活用し栄養摂取量水分量を全職員が確認できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	好みに応じた飲み物ゼリー作成高カロリー栄養剤を食べる時に少しずつ利用者に合う対応行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が献立作成行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食品の賞味期限チェックし、毎日のまな板、包丁、布巾など次亜塩素酸による消毒行っている。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会も取り上げて理解深めている。				利用者の口腔内の健康状態の確認は、義歯の有無程度に留まっており、虫歯や残歯などの情報までは明確に把握できていない。毎食後に、口腔ケアの実施しているが、口腔内の健康チェックまでには至っていない。今後は、入居時に利用者の口腔内の健康状態を観察するほか、定期的に口腔内に異常がないか確認するなどの支援を期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自立した利用者、義歯を外されない方については本人の訴え時しか解らないが食事状態に注意しこえ掛けを行っている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診を行った際に、その都度、医師などに聞いてケアを行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	手入れの拒否される方は上手に声かけを行って、支援を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後ケアを行っている各利用者その日の状態に必要な援助を行っている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	家族へ相談報告後速やかに受診できるよう対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	なるべく布パンツを使用して頂くように考慮しているが、状況に応じ尿パッド使用して頂くなど配慮を行っている。				日常生活の中で、利用者一人ひとりの排泄状況を観察しながら、職員間で適切な排泄方法などを相談している。ケアカンファレンスの中でも、排泄を取り上げて話し合いをしている。利用者の尿量や経済面を考え、職員は排泄用品の活用など排泄スタイルを、利用者や家族と相談しながら支援している。また、1日に排尿回数が20回以上ある利用者にも、職員1名が掛かり切りになることもあるが、トイレで排泄ができるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会を行い、理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を使用しその日の状態把握が出来るようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	会議などで話し合いを行い、最適な物を使用して頂けるよう努めている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議以外でも連絡ノートなどを活用し意見を出して、話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を参考にして声掛けし、パッド交換を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	業者さんとも相談を行い、最適なものを選択できるよう努めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	時間帯、尿量、使用感を考慮しより本人に合ったものを使用して頂けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品の摂取して頂いている。(好き嫌いは配慮している)				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	日中のみの対応となるが出切るだけ希望の時間に入浴できるよう努めている。	◎		○	曜日などは決めていないが、週2回利用者が入浴できるよう支援している。前もって利用者を決めず、各ユニットで午前中に3名ずつの入浴支援をしている。個別浴槽での利用者の入浴後には、1人ずつ毎回湯を交換している。午後入浴希望があれば、午後3時まで入浴できるよう対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	家庭的な雰囲気作りと一人ずつの入浴対応を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手摺りを数箇所設置し、安全面配慮を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間空けたり、別日にするなど対応を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルサインのチェック精神面栄養状態皮膚の状態と前面から考慮を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録し把握できている。	/	/	/	利用者の睡眠状況などは、介護記録に記載して把握している。夜間眠れない利用者には、職員と一緒にフロアで一緒に過ごすなどの対応している。職員は、利用者が安眠できるよう、日中の過ごし方や出来事などを職員間で検討して支援するほか、主治医にも相談できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中横になる時間減らしたり散歩や日光浴などして頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動に気を付け夜転生活にならないよう配慮している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼食後は居室で休める時間作れるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	友人と電話できている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙は書けない方多いが電話は職員が代行している。また、電話を替わるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	こちらから声掛けを行うようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	連絡先が分かる場合はお礼の電話行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	知人様からも電話頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出来ていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出来ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族や本人と話し合いを行い、決定している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	基本的にお金の所持は行っていないが、本人、家族とは話をしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	基本的にお金の所持は行っていない	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	色んな選択肢が出来るように色々な情報を提供し、選択できるようにしている。	◎	/	○	利用者の急な受診時に、家族に確認の上で同行支援したり、利用者から「警察に行きたい」などの意見が出され、一緒に行ったりするなど、職員は柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	きれいな草花を植えたり工夫を行っている。	○	◎	○	駐車場に車を止めると、すぐに玄関がある。玄関先は整理整頓され、清潔感がある。季節の花を植えるなど、入りやすい雰囲気となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	食事の席も場所を決め付けず場所など定期的に変更している。また、自由に座り心地よく過ごされている。	○	○	○	共用空間は広く、整理整頓され、車いすの利用者などの動線が確保されている。対面式のキッチンから、職員は事業所内の利用者の様子が見渡せ、大きな窓の前にはソファが置かれている。壁には、行事の写真や手作りのカレンダーが貼られている。各ユニット出入口や玄関先などには、多くの季節の花や植物が置かれ、利用者は季節を感じるができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	陽の光がまぶしいときはブラインド使用している。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓が多く自然光たくさん取り込み出来外の景色もよく見える。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自由にしようできるソファを設置したり余暇に居室で過ごしたりして頂いている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	建物の配置で見えないようになっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	今までの生活とあまり変化がみられないように近づけるよう配慮を行っている。	○	/	○	居室には、ベッドやクローゼット、エアコンが設置されている。テレビやイス、扇風機、タンス、座いす、鏡などの使い慣れた物のほか、お気に入りの化粧水やヘアスプレーなどの整容道具も置かれている。家族から送られた、ハロウィーンの花かごを飾っている利用者もいる。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや脱衣場は分かりやすく表示している。廊下での歩行運動を安全に行えるよう手摺りを設けている。	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	異食、誤飲の可能性ある場合は目の届かない所に保管している。	/	/	/	○	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌などだれでも手に取れる所に置いている。	/	/	/	○	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	いつでも家族様の面会に来ていただけるよう心がけている。また身体拘束の一つと認識している。日中、鍵を掛けていない。	/	◎	◎	◎	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	丁寧に説明行っている。	/	/	/	◎	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中、玄関に施錠する事はない。	/	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴の把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	小さな変化でも報告情報共有を行っている。また記録も行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	情報共有を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望されるかかりつけ医に継続受診できるよう支援を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	細目に情報提供を家族や医師に行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	基本的に、家族には連絡を先に行ってから、受診などを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	医師、看護師、ソーシャルワーカーに情報提供が行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に電話や訪問型情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医師、看護師、ソーシャルワーカーと関係作りを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	状態の異常時はかかりつけ医に報告し相談を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急時などには連絡体制は整っている。また、職員にも周知している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	細やかな変化でも報告情報の共有図り、異常の早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬局からいただく薬剤の説明書に目を通し理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	内服確認チェックシート表を作成名前日付を声でし確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	細目に観察し、記録を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	基本、服薬は2人が確認することになっている。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時や重度化した場合や終末期などには細目に家族様に説明や話し合いを行っている。	/	/	/	事業所として、開設以来1名の看取りを経験している。利用者の重度化や終末期を迎えた場合には、利用者や家族、医療関係者、職員で話し合い、今後の方針を共有している。「看取りに関する指針」等があり、緊急時対応の希望書も利用者や家族と一緒に記入してもらっている。また、重度化した場合には、病院への入院や介護老人福祉施設などに転居する利用者も多い。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	看取りの研修については、研修を行っている。また、必要時には協力医療機関の医師と相談を行っている。	○	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員との臨時のカンファレンスを行い、総合的に判断を行っている。	/	/	/		
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族との綿密な話し合いを行っている。	/	/	/		
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人や家族の気持ちを尊重しながら、チームで支援できるように調整を図っている。	/	/	/		
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話などでこまめに心情などを把握するようにしている。	/	/	/		
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会の議題に上げ学ぶようにしている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル作成し嘔吐物の処理セット設け迅速に対応できるようにしている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報収集こまめに行い職員に伝えている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	県のホームページ、新聞やメディアを通してチェックし対応している。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがいの徹底、外出時や来訪者のマスク着用手の消毒を行っている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	関係築けている。				田楽つくりや敬老会などの行事を家族に案内して参加してもらったり、昨年初めて家族会も実施し、家族同士の意見交換や交流をしたりしている。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、家族との交流は面会のみとなっている。管理者は、「コロナ禍が落ち着き、家族の来所などが自由に行えるようになれば、家族に行事参加などを促していきたい」と考えている。現在、家族とは、ほとんどが電話連絡であり、必ず月1回は家族に利用者の様子を報告している。請求書を送付時にも、必要があれば管理者が手紙を添えて同封することもある。メールなどのSNSを活用して、利用者の写真を送付するなどの連絡を取っている家族もいる。事業所の運営上の事柄や出来事については、主に電話で報告することが多く、面会制限などの連絡事項は、請求書の送付時に同封している。機器の導入や職員の異動などは、家族に報告までには至っていない。今後、事業所の広報紙を作成することなどを検討し、事業所の運営上の事柄や出来事について家族にも報告できる工夫を望みたい。また、家族からの意見や要望は、面会や電話連絡時に気軽に話ができるよう、職員から「何でもいいので相談してください」と、声かけをしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	現在ウイズコロナの状態である。制限がある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話など定期的に報告おこなっている。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	こちらから情報を細目に報告を行い、さりげない会話などから察して、報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時、電話などで家族関係が上手くいくように対応している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	連絡ノートに記入し全職員が閲覧している。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状況の変化に応じて家族様に説明対策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時や電話連絡時伺うようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約前に丁寧に説明し、同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族とは細目に説明を行い、転居先で困らないように対応している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約前に丁寧に説明し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で理解を図っている。	/	○	/	以前から地域との交流は少なかったが、交流を増やせるように法人・事業所として町内会に加入し、事務局を担っている。地元の五十崎大鳳合戦時の事業所としてトイレの貸し出ししたり、地域の防災訓練へ参加したりするなど、様々な参画を予定していたが、コロナ禍でほとんどの地域行事が中止となったため、管理者は次年度に実践できるよう考えている。今後も地域との交流が図れるよう町内会の事務局の間に、地域の行事などに積極的に利用者と一緒に参画することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に入り、事務局を担っている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩際に、声掛けなどをしている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	時折、柿やミカンを持ってきて頂いている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	社長が事務局を行っているので、時折、地域の人から寄っていただいている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	現在、コロナウイルスのため、文章を送っている。	/	△	△	運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、民生委員、町担当者などが参加して開催している。全ての家族に会議案内を出し、徐々に家族の参加が増え、前回の外部評価から参加者数も改善されている。会議と合わせて、認知症講演会を実施したり、防災に関する話し合いやサービスの評価結果、事業所の状況などを報告したりしている。現在はコロナ禍のため、書面での開催となっているが、事業所からの一方的な報告書類の送付に留まっているため、文書の送付前に参加メンバーや家族から意見を聞くなど、工夫した取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	年1回、報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現在、コロナウイルスのため、文章を送っている。	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在、コロナウイルスのため、文章を送っている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	定期的に、家族には運営指針会議の記録を郵送している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に基づいて日常的に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関の見やすい所に掲示している。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ケアカンファレンスなどは必ず参加をされているし、また施設内勉強会には積極的に参加されている。				年2回、代表者は人事考課のため、全ての職員と個別面談を実施し、意見を聞いている。日頃から、管理者も何かあれば、代表者に報告や相談ができています。サービスの向上や負担軽減のため、備品などの購入も職員から希望があれば快く購入する対応もしている。外部研修の参加のほか、職員のスキルアップにも積極的に努めるなど、職員の働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間計画を立てて、実施している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回、人事考課を行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	内子町GH連絡会に参加を行っている。また、連絡会の中で勉強会を年1回行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設に来た際は、細目に話を聞いておられる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止委員会を作り話し合いや様々な事例を踏まえ理解を深めている。				代表者と職員は勉強会等で学び、虐待や不適切なケアについて理解している。不適切な行為を発見した場合は、ユニットリーダーから管理者へ伝え、管理者から代表者に報告して、指示を受けて対応する仕組みづくりができています。伝達の仕組みなどは口頭で職員に伝えているが、管理者等は書面にまとめ、虐待防止マニュアルなどの作成を考えている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスだけでなく、常日頃、話し合いを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者の声ノートを作成、気になった発見行動を見落とさず職員で共有ケアの見直しに活用おこなっている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の顔の表情や態度、言葉遣いなどに注意して、適切に指導している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	マニュアルや会議、勉強会などを介して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	会議で話し合っている。また身体拘束廃止委員会にて点検を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望は無いが、あれば説明できるように勉強会を定期的に開催している。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会の議題に取り上げ学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	話の中で、成年後見制度の事を話すことがある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	困った事例があれば、電話などで地域包括支援センターに相談を行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルよ連絡事項用のファイル作成し職員に確認できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修参加を行い、実践できるように努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	再発防止に向けて会議で検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議にて状態の変化など話し合い事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	カンファレンスで話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。市町までは相談をしていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	直接発言できる機会はないが、職員を通して会議で発案し、検討している。			○	利用者が何らかの特段の場で話しを聞く機会は設けていないが、職員は日々の会話の中で意見を聞くようにしている。家族には、面会や電話連絡時を活用して、職員は個々の意見を聞くようにしている。職員からの意見は、日々の業務の中で意見も聞くほか、管理者からも職員に声をかけて意見を聞くよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関の所に、要望や意見を書いた紙を入れる箱を設置している。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関の所に掲示をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	週2、3回施設に来られて、機会を作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見を聞いたり、こちらから提案を行うようにしている				

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年二回各職員自己評価行っている。				職員も一緒に、自己評価に取り組んでいる。外部評価のサービス評価結果が出た後には、職員に周知するほか、運営推進会議の中でも報告している。また、目標達成計画の取組み状況なども職員に報告して取り組んでいるほか、会議の参加者に取組みの進捗状況などのモニターをしてもらうこともできている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を職員に周知して対応している				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標を立てているが、なかなか達成できていないが、努力は行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で、報告し、取り組みのモニターをしていただいている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内は出ているが、運営推進会議では出していない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアル作成できている。				事業所として、「非常災害対策計画」があり、様々な想定をして避難訓練を実施している。事業所の立地している場所は水害が発生する危険性があるため、近くの高台にあるお寺を避難場所として活用できないか相談している。事業所のある地域には、3～4名の防災士資格を持った住民がいるため、管理者等は地域の防災訓練に参加して協力体制を構築できるよう考えていたが、コロナ禍のため訓練が中止となり、実現には至っていない。また、事業所として、職員が防災士資格を取得したり、次回の地域の防災訓練に参加協力したり、災害に関しては地域住民と早急に話し合うことが必要と考えている。今後、近隣住民や他の介護サービス事業所等との防災において、協力支援体制の確保に取り組むことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間や夜間など様々な事を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	期限などの点検行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署とは訓練時に話をきけているが他事業所とは合同の訓練はできていない。	○	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	定期的に消防署と訓練は出来ているが、その他の機関等はあまり出来ていない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議の際には、啓発活動を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話などで対応している。		×	△	訪問調査日の前月にも、近隣住民からの問い合わせがあり、事業所として対応している。新型コロナウイルス感染症対策のため、地域活動などが中止となることが多く、現在は地域に対して情報が発信できていない。以前は、事業所の前の県道沿いに地域の園芸部が花を植え、利用者と一緒に散歩中に水をやるなどボランティア活動もすることができていた。今後、地域のケア拠点としての機能を果たしていくために、コロナ禍においても、可能な取組みを検討して実践できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	運営推進会議の際に、何時でも相談にのることをお伝えしている。また、施設にいつでも気兼ねなく寄って頂くように話している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出来ていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	認知症高齢者等見守りネットワーク協力機関になっており、各機関と連携なども行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3873600476
事業所名	グループホームあおぞら
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	小川 洋介
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 24 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、澄み切った「あおぞら」のように関わる全ての人々が「こころ」も「からだ」も、健やかで、朗らかな生活が送れるように支援致します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・1日1回は数名の方でも、外に出かけることが出来る。</p> <p>(結果) 毎日の参加は難しかったが、意識するようになりそれが定着できるようになった。重度の人でも少し回数が少ないが外の季節を感じる事が出来た。今後も引き続き行っていきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は設立して16年目を迎え、利用者の自立支援に向けて、利用者自身ができることを把握しながら、管理者と職員が一丸となって生活支援に取り組んでいる。「地域とのつながりを強固にしていきたい」と法人代表者と管理者は協力し、今年度から法人・事業所として町内会に加入して事務局を担っている。また、事業所では鍵をかけた取組みを実践しながら、防犯カメラを設置するなど、職員や利用者の安全にも配慮している。代表者自ら職員との面談を実施したり、外部研修の参加など職員のスキルアップに努めたりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者本人及び家族に聞き取りを行いながら、以降の把握に努めている。	◎	/	○	日頃から、職員は利用者のさりげない言葉のほか、日常生活での会話や行動を確認し、希望や意向を把握している。また、必ず介護計画の更新月には、職員が利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を再確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ケアカンファレンスの際に、検討を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などに話を聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	なるべく記録するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	常に、本人の気持ちを見落とさないように話をしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前から話を聞いているが、問題点が出てきた場合はその都度、話を聞いている。	/	/	◎	入居前に、職員は事前調査で自宅や入院先に出向き、利用者や家族から情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の担当者や担当の介護支援専門員、病院の相談員、リハビリ職員などからも、情報を確認して記録に残している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的に、アセスメントを行い、現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に記入し、スタッフ間で、共有するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	特に介護記録などに記入し、赤字で記入し、拾い上げやすいようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一日のチェック表を記入し把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人などから希望などを聞いて、カンファレンスで議題に挙げて、スタッフの色々な視点から考えている。	/	/	◎	毎月1回、職員全員が参加してケアカンファレンスを実施している。ケアカンファレンス前には、職員が事前に電話連絡時などを活用して利用者や家族の意向を確認し、職員間で情報共有をするほか、利用者本人の視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人などから希望などを聞いて、カンファレンスで議題に挙げて、スタッフの色々な視点から考えている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人などから希望などを聞いて、カンファレンスで議題に挙げて、スタッフの色々な視点から考えている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人にさりげなく、聞いたり、さりげない言葉を反映している。	/	/	/	ケアカンファレンスで話し合うほか、日常生活の中での利用者の言葉や行動と、家族からの希望などを取り入れ、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や本人と話をし、スタッフの意見なども聞いて総合的に判断している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族に、時折確認を取りながら、ケアプランを策定している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の聴力体制はできているが地域の人たちとは協力体制が難しいところがある。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランをすぐに見れるとことに置いている。	/	/	○	介護計画の支援内容は、各利用者用のファイルに挟み、フロア内で職員がいつでも確認できる場所に置いている。新入職員には、分かりやすく記入した介護計画の内容を渡している。月1回モニタリングを行い、職員間で利用者の現状やサービスの実施内容を確認し合っている。利用者の言葉や状況で特に変化があった場合には、赤字で経過記録に記載して分かりやすい工夫をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月1回モニタリングを行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録で特に変わったところ本人が言ったことなどを必ず記入している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に変わったことは、赤字で記入している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	最低6か月に一度、更新を行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。月1回、各利用者の担当職員がモニタリングを実施している。入退院時や状況変化があった場合には、計画作成担当者が中心となり、利用者や家族、医師などの関係者と相談しながら、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回、モニタリングを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じて、ケアプランの変更を行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月、ケアカンファレンスの際に、業務的なことも話し合っている	/	/	◎	毎月1回、ケアカンファレンスを実施している。緊急案件があった場合は、その日の出勤職員で話し合いをしている。参加できなかった職員には、出勤時に申し送りノートを見て確認してもらうほか、口頭での申し送りもしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	人の意見をまず聞いて、批判しないようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月、曜日や週を事前に決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	報告書を回覧している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	業務日誌、連絡ノートを使用している	/	/	○	出勤時の申し送り前に、職員は業務日誌と連絡ノートを確認し、サインまたは押印をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌、連絡ノートを使用している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望に添えるように対応している。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を確認している。発言の少ない利用者には、何げない発言や行動、表情を大切にして、分かりやすい選択肢などを提示している。利用者はレクリエーションの内容を決定してもらうほか、洋服や飲み物を選んでもらえるよう支援している。利用者が電話で家族と話せるよう支援したり、職員が昔話したりするなど、利用者の活き活きとした言動や表情を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者本人が服などを選んだりしている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	なるべく選んだりできるように、援助している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	基本的には利用者の希望を組んで対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	なるべく利用者から言葉などが出るように待っている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	なりげない言葉や、仕事を大事にしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修会で、毎年勉強を行っている。また、何気ないことを大切にしている。	○	◎	○	毎年1回、人権や尊厳をテーマとして取り上げて内部研修会を実施し、職員の理解できるよう支援している。管理者は、「言葉の乱れは虐待の始まり」と考え、日頃から職員に、利用者への声かけには配慮するよう指導している。また、居室への出入りは、必ずノックしてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大きな声ではなく、利用者の顔を見ながら対応している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	カーテンを開けたり、戸を閉めたり、これからすることを説明したりして介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックするなど、プライバシーの保護に十分配慮している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修会で勉強を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理などを教えて頂いたり、昔のことを教えて頂いたりしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握し、食事の座席を変更するなどの配慮をしている。新たな利用者が入居した場合には、職員はトラブルにならないよう特に気をつけて接している。また、仲の良い利用者同士が、食事以外でも塗り絵や洗濯たたみなど、隣席に座って行ってもらおうなどの支援もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活の大切さをことあるごとに、話している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	スタッフが間に入り、トラブルにならないように、気を配っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	距離を置いたり、席順を変えたりして工夫を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所当時に聞いているが、わからないことがあれば、その時点で、家族に聞くようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所当時に聞いているが、わからないことがあれば、その時点で、家族に聞くようにしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	なるべく、暇を見つけては対応するように気配りしている。	○	○	○	事業所近くの土手を散歩したり、道端の花を見に行ったりしている。現在はコロナ禍のため利用者の外出は控えているが、玄関先のベンチで過ごしたり、外に出て外気浴ができるよう支援している。重度の利用者にも、日中は居室からフロアに出て過ごしてもらい、換気も兼ねた窓の開閉で季節や外の空気、風を感じてもらっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	なるべく戸外へ出るように気配りを行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会を年1回行っている。	/	/	/	洗濯物やタオルたたみ、新聞でゴミ箱を作るなど、利用者に合わせたできる取組みを行なってもらっている。夜間パジャマへの着替え時のボタン掛けなど、利用者自身でできることをしてもらい、職員は待つ介護を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	理解している。維持向上が図れるように努力している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者ごとにあったことをして頂くようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家族や利用者から聞いて、ほぼ把握している。	/	/	/	タオルたたみや新聞折り、下膳、花の水やりなど、職員は利用者のできることを役割としてお願いをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ケアプランに導入を図っている。	◎	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の人が植えた花などに水をやっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人や家族に聞いて把握するように努めている。				化粧水や乳液をつけて化粧したり、髪飾りをつけたりするなど、自分でおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。車いすの男性利用者は自分で髭を剃り、職員は剃り残しがあれば、さりげなくフォローしている。定期的に訪問美容で整容しているほか、馴染みの美容室に出かける利用者もいるなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人や家族に聞いて把握するように努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	なり下ない言葉を投げかけて、利用者が判断できるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	担当者を決めて、スタッフ同士が話し合い相談して支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、即座に対応している。汚れた場合は着替えなどを行っている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	要望があれば対応している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な人ほど、気を配っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	マニュアルなどにも、大切さをまず、最初に書いており、大切に思っている。				献立は栄養士が作成したものを、利用者や職員が相談して変更する場合もある。食材は職員が注文し、地元の道の駅や商店から配達してもらい、不足した食材は、職員が買い出しに行っている。野菜の皮むきやお茶入れ、下膳は、利用者と一緒にしながら、職員が調理している。入居前に、利用者の嗜好やアレルギーの有無を確認しているが、入居後に利用者の嗜好の変化に気づくこともある。誕生日には、利用者のリクエストメニューを取り入れるほか、ケーキを購入している。8月にはそうめん流し、10月には芋炊き、地方祭にはお寿司など、行事や季節に合わせたメニューが提供され、利用者の楽しみにもつながっている。食器は利用者自身が持参した物を使用し、職員はさりげない介助をしながら、利用者と同じ食卓で食事を摂っている。食事前には、利用者がフロアで過ごし、調理中の匂いや音を感じ、食事が待ち遠しく感じるような支援にも取り組んでいる。また、食事形態や治療食など、主治医や栄養士、職員が相談しながら対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食べたいものを聞いたり、食材を見て話をしたりしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝って頂いたことには、感謝の「ありがとうございます」と伝えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族や利用者本人に聞いて把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	メニューを作成している人には、好みなどを伝え、季節感があるメニューを取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	健康状態に合わせて対応をしている。特にみためや、香りなどは注意している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個人の物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	状態に合わせて、席順を決めたり、食器の置き方などを工夫している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	一口一口、何であるかを伝えるようにしたり、メニューの説明を行っている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	医師や家族、利用者の意見や思いを聞いて管理している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食べる時間を変えたり、水分摂取量などの把握を毎日行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	ケアカンファレンスの際だけでなく、日常的に話をし、栄養士に相談を行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	マニュアルを策定し、それに従っている。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	マニュアルがあり、十分理解している。ケアカンファレンスの際にも話をしている。				利用者の口腔内の健康状態の確認は、義歯の有無程度に留まっており、虫歯や残歯などの情報までは明確に把握できていない。毎食後に、口腔ケアの実施しているが、口腔内の健康チェックまでには至っていない。今後は、入居時に利用者の口腔内の健康状態を観察するほか、定期的に口腔内に異常がないか確認するなどの支援を期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケアの際に注意して状態を見ていて、把握に努めている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診の際に、アドバイスを頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の人はポリドントに毎日つけている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	なかなか出来ていない。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常には、早期受診を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	マニュアルがあり、十分に理解している				日常生活の中で、利用者一人ひとりの排泄状況を観察しながら、職員間で適切な排泄方法などを相談している。ケアカンファレンスの中でも、排泄を取り上げて話し合いをしている。利用者の尿量や経済面を考え、職員は排泄用品の活用など排泄スタイルを、利用者や家族と相談しながら支援している。また、1日に排尿回数が20回以上ある利用者にも、職員1名が掛かり切りになることもあるが、トイレで排泄ができるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	マニュアルがあり、十分に理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的に、スタッフ間で話し合い、見直しを行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	定期的に、スタッフ間で話し合い、見直しを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	少しでも利用者にあった時間などに排泄の誘導などを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状態などを把握して本人や家族などに相談して対応している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の意思を尊重しながら、利用者様の状態に合わせて、適宜変えている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	牛乳や繊維質の物をなるべく摂取できるように工夫している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	なるべく利用者様の希望に添えるように、本人などの希望を聞いて対応している。	◎		○	曜日などは決めていないが、週2回利用者が入浴できるよう支援している。前もって利用者を決めず、各ユニットで午前中に3名ずつの入浴支援をしている。個別浴槽での利用者の入浴後には、1人ずつ毎回湯を交換している。午後の入浴希望があれば、午後3時まで入浴できるよう対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個浴を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	状況に合わせて、福祉用具を使用している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入った時の対応を参考にして、毎回工夫を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル測定を行って、健康状態の把握に努めている。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録に記入しているため、把握できている。				利用者の睡眠状況などは、介護記録に記載して把握している。夜間眠れない利用者には、職員と一緒にフロアで一緒に過ごすなどの対応している。職員は、利用者が安眠できるよう、日中の過ごし方や出来事などを職員間で検討して支援するほか、主治医にも相談できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	スタッフ間で、情報共有を図って対応している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	状態を医師に相談したり、日中の過ごし方などを見ながら総合的に判断している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の想いを大切に対応している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話が掛かってきたり、手紙の交換などを行うことがある。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話が難しいけれども、話をしてみませんかと利用者様に話して支援を行うようにしています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	いつでも電話を掛けられるように利用者には話している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ハガキなどは本人に見て頂き、そのハガキが見えるところに掲示していたりする。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の方にも電話を掛けても構いませんと話しています。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	介護の勉強をしているので、理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出来ていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人や家族には入居時に聞いているが、ほとんどの方が持たれていない。一部の方が家族が持たせていることあり。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	話し合っているが、施設ではほとんどの方がお金を持っていない。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	出納帳で管理している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	本人や家族には色々なサービスがあることを伝え、選択できるように支援している。	◎		○	利用者の急な受診時に、家族に確認の上で同行支援したり、利用者から「警察に行きたい」などの意見が出され、一緒に行ったりするなど、職員は柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植えたりして、環境整備に気を付けている。	○	◎	○	駐車場に車を止めると、すぐに玄関がある。玄関先は整理整頓され、清潔感がある。季節の花を植えるなど、入りやすい雰囲気となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	写真などを置いたり、家庭的な物を置いて対応している。	○	○	○	共用空間は広く、整理整頓され、車いすの利用者などの動線が確保されている。対面式のキッチンから、職員は事業所内の利用者の様子が見渡せ、大きな窓の前にはソファが置かれている。壁には、行事の写真や手作りのカレンダーが貼られている。各ユニット出入口や玄関先などには、多くの季節の花や植物が置かれ、利用者は季節を感じるができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気扇を常時使用している。細目に掃除を行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	音楽を流すようにしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファなどを配置したり、居室への誘導などで居場所の工夫を行っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造上見えなくなっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	私物で基本的には、持ってきていけないものはない。	○	/	/	居室には、ベッドやクローゼット、エアコンが設置されている。テレビやイス、扇風機、タンス、座いす、鏡などの使い慣れた物のほか、お気に入りの化粧水やヘアスプレーなどの整容道具も置かれている。家族から送られた、ハロウィーンの花かごを飾っている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーや手すりがついて、動きやすい作りになっている。	/	/	○	トイレは各ユニットに2か所あり、使用時は入口に「使用中」と札をかけているほか、トイレの中には、車いすを使用している利用者に向け、「立つ前にブレーキしましょう」と大きく書いた紙が貼られ、利用者自身ができることを活かせるよう配慮している。車いすの利用者の動線も確保され、手すりも活用しながら利用者ができるだけ自力で移動できるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	同じつくりの部屋があるため、間違えがあるので利用者様に飾りをつけたりしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	入居時などには本人や家族にお話をしたり、面会時には再度、声掛けを行っている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中基本的に、玄関には鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は、日中に玄関やユニットの出入口、居室に鍵をかけることの弊害を理解している。夜間は防犯のため、20時から朝7時まで防犯のため玄関の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	家族には、入居前に話を理解していただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中基本的に、玄関には鍵をかけていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	いつでも見れるような所に、書類が置かれている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	経過観察記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	早めの対応を行い、医師に報告して、その後の対応を即座に行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力病院以外の受診も家族などと相談して支援している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	細目に家族などと相談を図って、関係機関と連携を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	なるべく早く家族に電話連絡して今後などの対応を図っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供書を病院に提出したり、口頭で伝えたりしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	情報提供書を病院に提出したり、口頭で伝えたりしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医と連携を取り、その他の専門職とも連携を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師に相談を行い、不在の時は、医師に相談を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急連絡網で対応している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	異常時は状態報告を行うようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬状書を見たり、医師や薬剤師に聞いたりしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	定期的に、薬の管理の仕方を変更している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬が変わった際には十分気を付け、状態変化があった場合は医師にすぐに相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	往診時や受診時に情報提供している。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合の指針を策定しており、家族に説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	事業所として、開設以来1名の看取りを経験している。利用者の重度化や終末期を迎えた場合には、利用者や家族、医療関係者、職員で話し合い、今後の方針を共有している。「看取りに関する指針」等があり、緊急時対応の希望書も利用者や家族と一緒に記入してもらっている。また、重度化した場合には、病院への入院や介護老人福祉施設などに転居する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合の指針を策定しており、家族に説明を行い、同意を得ている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	年1回の勉強会を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所前に説明を行い、状況に応じて繰り返し説明を行う。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	緊急時の希望書などを策定し、状況に合わせて変更を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	細目に家族への配慮を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症マニュアルを策定し、外部の勉強会へ参加を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを策定し、外部の勉強会へ参加を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネットを駆使して情報把握に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	インターネットを駆使して情報把握に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	冬場は、マスク、消毒の徹底を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	一緒に生活している人間として対応している。	/	/	/	田楽つくりや敬老会などの行事を家族に案内して参加してもらったり、昨年初めて家族会も実施し、家族同士の意見交換や交流をしたりしている。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、家族との交流は面会のみとなっている。管理者は、「コロナ禍が落ち着き、家族の来所などが自由にできるようになれば、家族に行事参加などを促していきたい」と考えている。現在、家族とは、ほとんどが電話連絡であり、必ず月1回は家族に利用者の様子を報告している。請求書を送付時にも、必要があれば管理者が手紙を添えて同封することもある。メールなどのSNSを活用して、利用者の写真を送付するなどの連絡を取っている家族もいる。事業所の運営上の事柄や出来事については、主に電話で報告することが多く、面会制限などの連絡事項は、請求書の送付時に同封している。機器の導入や職員の異動などは、家族に報告までには至っていない。今後、事業所の広報紙を作成することなどを検討し、事業所の運営上の事柄や出来事について家族にも報告できる工夫を望みたい。また、家族からの意見や要望は、面会や電話連絡時に気軽に話ができるよう、職員から「何でもいいので相談してください」と、声かけをしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	新型コロナウイルスのため、制限がある。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話や面会時に連絡報告を行っている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	定期的に電話を行い、その際に、その他の事柄も話すようにしている。その際に、要望などを聞くようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者様のわからない事柄があったら、家族に聞くなどするようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	不定期ではあるが、報告し、協力いただける様にしている。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状況に応じて、家族に説明を行い、話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	面会時に連絡などを取っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	適宜、十分な説明を行っている。必要ならば署名捺印を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者及び家族の意向を大事にして対応を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用者及び家族に説明を行い同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で理解を図っている。	/	○	/	以前から地域との交流は少なかったが、交流を増やせるように法人・事業所として町内会に加入し、事務局を担っている。地元の五十崎大風合戦時の事業所としてトイレの貸し出ししたり、地域の防災訓練へ参加したりするなど、様々な参画を予定していたが、コロナ禍でほとんどの地域行事が中止となったため、管理者は次年度に実践できるよう考えている。今後も地域との交流が図れるよう町内会の事務局の間に、地域の行事などに積極的に利用者と一緒に参画することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に入り、事務局を担っている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩の際に声掛けなどをしている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	立ち寄る機会は少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	時折、ミカンや柿などを持ってきてくださることあり。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者及び家族の参加があまり出ていない。	/	△	△	運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、民生委員、町担当者などが参加して開催している。全ての家族に会議案内を出し、徐々に家族の参加が増え、前回の外部評価から参加者数も改善されている。会議と合わせて、認知症講演会を実施したり、防災に関する話し合いやサービスの評価結果、事業所の状況などを報告したりしている。現在はコロナ禍のため、書面での開催となっているが、事業所からの一方的な報告書類の送付に留まっているため、文書の送付前に参加メンバーや家族から意見を聞くなど、工夫した取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	年1回、報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	現在、コロナの影響で、文章を送っている。	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	現在、コロナの影響で、文章を送っている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	家族には定期的に郵送しているが、施設内では掲示などはしていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に沿った介護に進んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関の見やすいところに貼っている。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画を策定し、外部の研修にも少しでも多く参加できるように配慮している。				年2回、代表者は人事考課のため、全ての職員と個別面談を実施し、意見を聞いている。日頃から、管理者も何かあれば、代表者に報告や相談ができています。サービスの向上や負担軽減のため、備品などの購入も職員から希望があれば快く購入する対応もしている。外部研修の参加のほか、職員のスキルアップにも積極的に努めるなど、職員の働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	状況を見ながら、スキルアップできるように配慮している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回ほど人事考課を行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	内子町のGH連絡会に所属して、対応をしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表者の方から話しかけるようにしている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年1回勉強会を開催している。				代表者と職員は勉強会等で学び、虐待や不適切なケアについて理解している。不適切な行為を発見した場合は、ユニットリーダーから管理者へ伝え、管理者から代表者に報告して、指示を受けて対応する仕組みづくりができています。伝達の仕組みなどは口頭で職員に伝えているが、管理者等は書面にまとめ、虐待防止マニュアルなどの作成を考えている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアカンファレンスを月1回開催している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	年1回勉強会を開催している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	こちらから積極的に話しかけるようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年1回勉強会を開催している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアカンファレンスを月1回開催している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望があったら、説明を行い理解して頂くように努めている。				

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	年1回勉強会を開催している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	成年後見制度などの制度の話が必要な時には、情報提供をしたり、相談にのる体制はとっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な利用者様には対応できるように、地域包括支援センターと連携を取っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを策定して対応している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に勉強会を行い、事故防止に努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書を策定し、回覧している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月1回のケアカンファレンスで検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	カンファレンスで話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。市町までは相談をしていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	直接発言できる機会はないが、職員を通して会議で発案し、検討している。			○	利用者が何らかの特段の場で話しを聞く機会は設けていないが、職員は日々の会話の中で意見を聞くようにしている。家族には、面会や電話連絡時を活用して、職員は個々の意見を聞くようにしている。職員からの意見は、日々の業務の中で意見も聞くほか、管理者からも職員に声をかけて意見を聞くよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関の所に、要望や意見を書いた紙を入れる箱を設置している。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関の所に掲示をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	週2、3回施設に來られて、機会を作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見を聞いたり、こちらから提案を行うようにしている			○	

愛媛県グループホームあおぞら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年二回各職員自己評価行っている。				職員も一緒に、自己評価に取り組んでいる。外部評価のサービス評価結果が出た後には、職員に周知するほか、運営推進会議の中でも報告している。また、目標達成計画の取組み状況なども職員に報告して取り組んでいるほか、会議の参加者に取組みの進捗状況などのモニターをしてもらうこともできている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を職員に周知して対応している				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標を立てているが、なかなか達成できていないが、努力は行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で、報告し、取り組みのモニターをしていただいている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内は出ているが、運営推進会議では出していない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアル作成できている。				事業所として、「非常災害対策計画」があり、様々な想定をして避難訓練を実施している。事業所の立地している場所は水害が発生する危険性があるため、近くの高台にあるお寺を避難場所として活用できないか相談している。事業所のある地域には、3～4名の防災士資格を持った住民がいるため、管理者等は地域の防災訓練に参加して協力体制を構築できるよう考えていたが、コロナ禍のため訓練が中止となり、実現には至っていない。また、事業所として、職員が防災士資格を取得したり、次回の地域の防災訓練に参加協力したり、災害に関しては地域住民と早急に話し合うことが必要と考えている。今後、近隣住民や他の介護サービス事業所等との防災において、協力支援体制の確保に取り組むことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間や夜間など様々な事を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	期限などの点検行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署とは訓練時に話をきけているが他事業所とは合同の訓練はできていない。	○	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	定期的に消防署と訓練は出来ているが、その他の機関等はあまり出来ていない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議の際には、啓発活動を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話などで対応している。		×	△	訪問調査日の前月にも、近隣住民からの問い合わせがあり、事業所として対応している。新型コロナウイルス感染症対策のため、地域活動などが中止となることが多く、現在は地域に対して情報が発信できていない。以前は、事業所の前の県道沿いに地域の園芸部が花を植え、利用者と一緒に散歩途中に水をやるなどボランティア活動もすることができていた。今後、地域のケア拠点としての機能を果たしていくために、コロナ禍においても、可能な取組みを検討して実践できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	運営推進会議の際に、何時でも相談にのることをお伝えしている。また、施設にいつでも気兼ねなく寄って頂くように話している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在、コロナウイルスのためほとんど出していない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	認知症高齢者等見守りネットワーク協力機関になっており、各機関と連携なども行っている。			○	